

# 水の力で祭りに彩り

## 発電機でLED点灯 福井 キャンプの児童歓声



辻一憲さん(左)からピコ水力発電の仕組みを聞く子どもたち＝福井市の上味見生涯教育施設で

校長(左)は「校内で参加者を募集し、今年初めて参加した。通常の

林間学校よりも、生の自然を感じ、現場主義の活動ができる」と、同施設でのキャンプを評価する。

入力は今月だけで三回目。この日は辻理事長らが子どもたちに電気が生じる仕組みを教え、一緒に発電機を用水路に設置した。

すると、子どもたちは大喜び。続いて、祭りの場のグラウンドまで電線を延ばした。高島第六小二年の水島海翔君(左)は「水の力で電気ができるとは知らなかった。勉強になった」と話した。(梅野光春)

福井市中手町の市上味見生涯教育施設(旧上味見小学校)でキャンプをする子どもたちが十五日、施設脇の用水路の水流を利用したピコ水力発電で発光ダイオード(LED)の電飾をともし、同日夕年に施設グラウンドであった地元の祭り「かみあじみむら夏祭り」に彩りを添えた。子どもたちは県内や京都府、東京都などから集まった小学一〜六年の二十五人。十二日十六日の日程で、施設のグラウンドの一角にテントを張り、自炊して過ごしている。

東京都板橋区の高島第六小からは十人が参加。引率した安藤吉高